

県、市庁舎統合し新築に

25年目標 同友会が提言

福井経済同友会は24日、「北陸新幹線延伸に向けた県都創生」と題する提言を発表し、県庁と福井市役所の移転について両庁舎を統合した新庁舎を、JR福井駅西口の新栄商店街かいわいに建設するよう求めた。県庁跡地の活用方法としては、4千人規模収容のコンベンションホールの設置を示した。中心市街地をにぎわいのあるエリアにする狙いで、10年後の2025年までの実現を目標としている。

(水口浩樹)

116面に関連記事



福井経済同友会が提言した県、市庁舎の移転先

県庁跡地には大ホール

北陸新幹線の敦賀開業を23年に控え、県都福井市のまちづくりの在り方について県民の議論を喚起しようと、同友会地域経営委員会が2年間かけてまとめた。八木誠一郎代表幹事(フクビ化学工業社長)らが同日、県庁で記者会見して発表した。

庁舎の移転先に、新栄商店

街かいわいを選んだ理由について同委員会の佐々木知也委員長(東工シャッター社長)は「中心部の中心であり、にぎわいを創出する場として最

適と判断した」と説明した。県、市合わせて3千人以上の職員が毎日通勤し、庁舎を訪れる市民も多く、周辺の商店街に活気を与えると期待している。新庁舎には商業施設の入居も提案している。

県庁移転後の跡地は福井駅に近い好立地を生かし、フェ

ニックス・プラザの約2倍の規模を持つコンベンションホールを設置する利用案を提示した。国際レベルなど大きな会議のほか、展示会もできる多機能施設を想定。「福井城ホール」と名付け、かつての本丸御殿を意識したデザインもイメージとして示した。

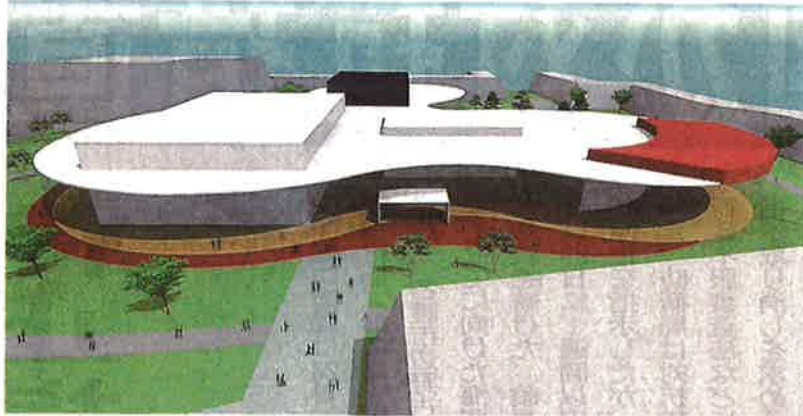
新栄商店街と福井城跡かいわいの求心力を高めることで南北方向の人の流れをつくり、福井駅から西武福井店方面へ向かう東西方向の流れとともに、面として波及効果をつくる狙いがある。

都市間競争が激しくなり、人口減少対策が急がれる中で庁舎移転は、新幹線敦賀開業の波及効果が続くうちに完了すべきとし、目標を同開業から2年後の25年とした。資金面はPFI(民間資金を活用した社会資本整備)や、民間

のノウハウや資金を活用するPPP(公民連携)などの手法を提案した。

八木代表幹事は「こういう形で一石を投じ、いろいろな意見をいただいで次の一歩へ進めていきたい」と話した。提言は同日、西川知事と東村新一福井市長宛てに提出した。

福井経済同友会が県庁移転跡地に設置を提言した「福井城ホール」のイメージ図(同友会提供)



県都活性化「時間ない」

経済同友会が庁舎移転提言

福井経済同友会が24日発表した県庁と福井市役所の移転に関する提言は、八木誠一郎代表幹事が1月の年頭所感で「思い切って踏み込みたい」と話していた通り、移転場所や跡地の活用方法など極めて具体的な内容となった。特に10年後までに完了というタイムスケジュールを示したところに、人口減少時代を迎えて県都の中心市街地活性化を急がなければならないという危機感が表れている。

（水口浩樹）
――1面に本記

具体的、危機感の表れ

県、市庁舎については県と市が定めた「県都デザイン戦略」の中で、2050年までに移転・再配置することが明記されている。今回の提言は、それより25年も早く年限を設けた。八木代表幹事は「時代に合わない時代にきている」との認識を示した。



記者会見で提言を発表する福井経済同友会の(左から)開発、八木、佐々木の各氏―24日、県庁

福井商工会議所の検討委員会も昨年9月、両庁舎の移転先として5カ所の案を報告書にまとめている。今回は、そのうちの1つの案と近い場所の1カ所に絞った。県庁の移転跡地に設置を求めた「福井城ホール」についてはイメージ図も提示、移転の資金面に関しても調達方法の提案を盛り込み、より具体性を持たせている。

県庁で行われた会見で、同友会地域経営委員会の開発副委員長(開花亭社長)は「提言は県都デザイン戦略をないがしろにするものでなく、むしろ確実に進捗させるために県民、市民の意識を喚起するのが狙い」と説明。「ここまでは具体的に提言するのはリスクも高いが、福井を魅力あるまちにするために、みんなで作るべきかけになれば」と期待感を示した。

提言を受けて直ちに行政が動くとは考えにくいものの議論が、どこまで関係者を巻き込んで広がっていくか注目される。

日刊 県民福井

「新栄商店街に合同庁舎」

県庁、福井市役所の移転案

福井経済同友会

2011(平成23)年10月21日(水)

福井経済同友会は二十四日、二〇二五年までに県庁と福井市役所を合同庁舎として同市中央二丁目の新栄商店街に移転し、県庁跡地に「福井城ホール」を建設

する案を、提言として発表した。二〇二三年の北陸新幹線の延伸を見据え、県都デザイン戦略の早期実現を迫った格好だ。提言によると、合同庁舎

は一六年春に開業するJR福井駅西口再開発ビルの斜め向かいに位置。民間企業の資金やノウハウを活用するPFI方式を導入して建設経費を抑える。福井城ホ

ールはコンベンション施設として整備し、四千人を収容。天守閣ややぐらの復元を妨げないよう本丸御殿の範囲にとどめる。

県と福井市が二三年三月にまとめた県都デザイン戦略では五〇年までに両庁舎を移転し、県庁跡地を福井城址公園として整備すると規定。ただし、移転先は示されておらず、昨夏には福井商工会議所が五つの案を提示した。

今回の提言は商議所案の一つとも一致。県庁で会見した八木誠一郎代表幹事（フクビ化学工業社長）は地域間競争のライバルに金沢を挙げ、「時間はない。償却を捨てても投資しなければならぬ」と強調した。提言書は西川一誠知事や東村新一市長に配布。会見に同席した同友会地域経営委員会の開発副委員長（開花亭社長）は「街づくりの方法をみんなで考えていくきっかけになれば」と話した。（高橋雅人）

日経

2015(平成27)年11月25日(水)

「県庁跡地に国際会議場を」移転巡り 福井同友会

福井経済同友会は24日、福井県庁と福井市役所の移転に関する提言を発表した。2025年までに合同庁舎を福井駅前

に造り、現在県庁がある福井城址(じょうし)には国際会議を開ける「福井城ホール」を設けると

した。経済界が求める北

陸新幹線の福井駅先行開

業に向け、駅前整備の議

論を活性化させる。

合同庁舎の候補地には

福井駅近くの新栄商店街

周辺を挙げた。16年3月

に完成予定の西口再開発

ビルや福井城址、西武福

井店などに近い一方、空

き店舗が目立つ。商業施

設と合わせた合同庁舎で

にぎわい創出を狙う。

福井城ホールは4千人

程度を収容できる大ホー

ルを提案した。企業の研

修や国際会議、学会など

を取り込む。八木誠一郎

代表幹事(フクビ化学工

業社長)は「ライバルと

して考えなければならな

いのは金沢だ。少しでも

早く、魅力あるまちづく

県と市は13年に庁舎移
転構想を示したが移転先
や時期には触れていな
い。14年は福井商工会議
所が移転先として福井駅
周辺5カ所を提案した。